



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ピセンテ・ジアイ会長

◎本日の例会

12月20日/第482回例会

回 ビュッフェスタイル例会のため卓話はありません

◎先週報告

12月13日/第491回例会

回 RI第2750地区中村健二郎ガバナー公式訪問

回 会長報告

本日は早朝より中村地区ガバナー、田中地区副幹事、沖千代田分区代理をお迎えして、9:30より懇談会、引続き10:30より第3回クラブ協議会を開催することが出来ました。

回 雑誌委員会 (佐々木委員)

「ロータリーの友」12月号横書き巻頭のジアイRI会長の文は本日のクラブ協議会のテーマとも関連しているので御一読下さい。また中ほどの「表紙について」もなかなか含蓄があります。

回 10周年記念式典委員会 (新保委員)

10周年記念式典の写真を掲示しましたので、御希望の方は名前を書き入れて下さい。

回 慶事披露 ● ポール・ハリス・フェローメダル授与/柴藤清三郎君

● 誕生日祝/鈴木重徳君 (12月4日)、柴本芳郎君 (12月18日)

● 10周年記念行事にあたって、当クラブ事務局の山中さんの永年に渡る勤務に対し、また、例会でピアノの演奏を永年に渡り奉仕していただいた泉さんに感謝状を贈呈しました。

回 出席報告 ● 会員68名・出席49名・欠席19名 (出席規定免除者1名)

ビジター (3名 敬称略・順不同)/KIYOSHI MIZOI (New York RC)、大石智一、竹下浩二 (以上東京芝RC)



中村 健二郎 氏

回 卓話「公式訪問に際して」

12月13日例会

1996~97年度

RI第2750地区ガバナー 中村 健二郎 氏

本年最後のクラブ訪問を、ロータリーの本質に迫る議論、素晴らしいご討議の中で終えることができ、大変嬉しく思います。

ガバナーとして、RIジアイ会長を理解した上で、国際ロータリーのテーマを皆様方にお伝えするのも私の務めです。ジアイ会長はアナハイムの国際協議会の冒頭で本年度の国際ロータリーのテーマの由来について、「人類はどんなに文明が進んでも、過去を変えることは絶対にできないが、未来は築ける、それを準備することができる」と説明をされました。これを実行するにあたって6つの指針、示唆を与えられました。第一は「先達の歩みに敬意を表する」です。ポールハリスが亡くなって来月で満50周年になる、これにちなんだことを考えて下さい、ということです。2750地区では、4月12、13日東京フォーラムで開催される地区大会において、「ポールハリスにちなむパネルフォーラム」を行い、これに應える予定です。

次が「会員増強で未来を築く」です。93年-94年に16万人ものメンバーの減少に対して、昨年ブラウン会長が大変心配をし、猛烈に会員増強を進めた結果、今年の6月には120万6千人まで回復した。それでも未だ前年より少ない。今楽しくロータリーライフをおくっているなら、そのことを感謝し、あなたをロータリーに誘ってくれた方に敬意を表するためにも一人でも多くの方を誘っていただきたいというのが、ジアイ会長からの皆さまへの伝言です。

3番目は「職業奉仕の質」です。38年間このことに関してテーマに取り上げられていない。ジアイ会長が如何に重要視しているか、昨今の日本の状況を見るにつけ、その重要性を特に強く感じます。ジアイ会長が日本に向けてこの項目を入れられたのかなとすら思わせるようなテーマです。個人が失わせた信用を取り戻すための努力は個人がしなければならない、そう考えると、社会進出が著しい女性も含めて、職業奉仕の考え方を共有していただくことも必要かと思っております。

よいお年をお迎え下さいますよう、そしてこのクラブの益々の発展を心から祈念いたします。(まとも 村山)



順不同・敬称略

12月13日/13件 35,000円

本年度累計 1,319,380円

多額のご寄付を有難うございました。

田辺賢三・宮武保義・梶内滋男・小湊雅亮・高須康有/中村ガバナー公式訪問有難うございます。河原勢自/中村ガバナー公式訪問有難うございます。参加の皆様有難うございます。佐藤定宏/中村ガバナーを歓迎して、又、10周年式典を無事済ませました。保森 登/中村ガバナー、田中地区副幹事ようこそ御出下さいました。鍋島晴夫/毎年バザーでJALグローバルクラブ日記帳をお買い上げ頂いている方、今年もお使い下さい。柴田陽三/出張の為欠席が続きましたので。柴本芳郎/メインイベントが続きました。会長初め関係の皆様ご苦労さまでした。高橋良士/忘年家族会家族4人で出席楽しいひとときでした。川鍋二朗/急用にて午前中欠席致しました。

回ガバナー公式訪問 第3回クラブ協議会

テーマ「創立の原点を見つめて—過去を振り返り、未来を築こう—職業奉仕を通して」

12月13日 例会前 10:30~12:10 東京全日空ホテルB1 青雲の間 出席者 来賓/中村ガバナー、田中地区副幹事、沖千代田分区代理 会員/34名

河原会長より来賓の紹介、挨拶のあと、荒木幹事の協議会の進め方についての説明に引き続いて、活発な討議が行なわれた。

(1)本日のテーマの主旨について 平井職業奉仕委員長

当クラブは創立当時から、職業倫理・職業道德の水準を高め、職業奉仕を通して、社会に奉仕する勉強会、フォーラム等を積み重ねてきたが、ここでもう一度創立の原点をみつめ、職業奉仕の本質を理解するための勉強を、くり返す必要があると思う。

それにはまず、ロータリーの綱領とは何か、四つのテストとは何か、職業宣言とは何か、という最も重要な規範である3点を完全に理解することであり、このクラブ協議会で討議を重ね、勉強をし、会員各自が更に、より高度にして品位ある職業奉仕を実践に移していただくことをテーマの主旨とした訳である。

(2)ロータリーの職業奉仕の意義について

イ、「ロータリーの綱領」を中心として、私の解釈 吉田会員
ロータリーの綱領は1906年にシカゴR.Cで初めてクラブとしての綱領として設定されて以来、全米R.C連合会、国際R.Cと受け継がれ、1935年ほぼ現在の綱領が出来上がったという歴史があります。戦後制定された現在の日本の憲法がその後の日本の歴史を動かしたように、あらゆるロータリーの活動を律していく原理原則であり、ロータリー発展の基礎となったものではないかと思えます。

当クラブの今後の活動を考えていく際、この綱領に盛り込まれた精神を常に前提としながら決めていく必要があるのではないかと思います。そういった意味で当クラブの中に「ロータリーの綱領研究会」みたいなものを作るのも意味があるのかなあ、とも考えました。

ロ、「四つのテスト」を中心として、私の解釈

高須職業奉仕副委員長

四つのテストは、1932年にシカゴのロータリアンであった、ハーバート・テラーが、倒産寸前の会社を再建するにあたって考案した事業遂行上の判断基準、物さしである。職業奉仕の実践上の行動規範につながるものとして、国際ロータリーでとり入れたものである。内容については、英語の原文から見直すことで、理解しやすくなった。一例としてtruthを「真実」といった絶対的なものでなく、「うそ偽りはないか」、「ほんとうのことか」と読みとるとわかりやすくなります。しかし、この短い言葉にはかなり奥深さを感じます。すでに64年過ぎた現在でも、陳腐化なく全世界のロータリーに広まっていることを考えても、職業上のみならず、あらゆる社会生活において通用する行動指針であると思えます。

ハ、「職業宣言」を中心として、私の解釈 宮武会員

職業宣言は1989年の規定審議会で採択された。ロータリアンが各自の職業において高い道德水準を保ちそれを実践する心構えを具体的に述べたものである。職業宣言を正しく理解するためには、その前年のRI理事会による「職業奉仕に関する声明」の背景を思い起こすことが必要である。当時、ケラーRI会長は「ロータリーの初期においては、商業道德や事業倫理の徹底向上に関する取り決めが職業奉仕の中から数多く生み出されているが、最近では過去40年以上もRIレベルでの職業奉仕委員会が開かれていない等、私たちが、職業奉仕をなおざりにしてきたことは否定できないと思う」と述べている。昨今の我国の世相を考えると、今一度噛みしめるべき言葉である。

(3)職業奉仕全般について 田辺会員

ロータリーの目的は職業奉仕の推進にあるといえる。ポール・ハリスはその著書の中で、ロータリーを宗教でもなければ、宗教に代わるべき何かでもない、それは古くからある道德観念を現代生活、特に職業ビジネス生活において実践しようとするものであると言っている。法律以前の問題として、人の心の中にある良心ともいうべき道德観念を職業の中で規制していこうという職業奉仕であり、ロータリアンの中心的な理念である。

四つのテストはテラーさんのすばらしい理念であり、それに基づいて指導者は判断すべきと考えロータリーでは大きな理念として掲げている。日常の仕事の中でいつも考えていることで、自然に良心に基づく姿勢、心構えができるということが大切ではないかと思う。

(4)意見交換

93年の職業奉仕フォーラムでパネリストをつとめた宮本会員から、「この場を借りて、当クラブではこのようなことも勉強しているという例を紹介させていただきたい」ということで以下の報告がなされた。

現在、フレデリック・シェリドンの論文を翻訳中で、半分近くを終わらせている。この論文は、1911年にポートランドのコンベンションで採択された提案について詳しく説明するためにシカゴ・ロータリーのために書かれたもので、高々4ページの論文だが、職業奉仕の理解に役立つバイブルともいえる。profitとserviceがキーワードで、哲学、経済、科学など広範な視点から考察されている。翻訳を無事終わらせて皆さまの参考にしていただければと思っている。

続いて、河原会長の内容まとめ、中村ガバナーの感想をいただき、協議会を終了した。(まとめ 村山)

回12月理事会議事録

と き 12月13日(金)

例会後 13:40~15:50

ところ 東京全日空ホテル1F

孔雀の間

出席者 河原、青野、平井、四分一、

武下、渡部、保森、田辺、

大日方、荒木

(敬称略・順不同)

決 議 事 項

1. 退会希望の件/村松秀二君
業務繁忙のため同君の退会を96年12月31日付けで承認。
2. 第4回クラブ協議会(1/24)テーマを次の通り承認。
「創立の原点を見つめて—過去を振り返り、未来を築こう—」
クラブ奉仕を通して(親睦活動、R情報、会員増強、例会のあり方を中心として)
3. 下期1月のプログラムを承認。

報 告 事 項

1. 幹事報告
田島一郎会員は怪我で入院、石東嘉男会員は病気入院中で暫く休会されます。
2. 国際奉仕委員会報告
マニラMetroRCよりR財団同額補助金の共同申請の打診がありましたが、検討の結果、申請は行なわれないことにしました。
3. 会員増強委員会報告
入会を希望される段階では、「会員名簿」その他の資料の提出は従来通り禁止する。

◎次週12月27日(金)、次々週97年1月3日(金)は休会(年末・年始)です。

会員の皆様、ご家族の皆様お揃いでよいお年をお迎え下さい。

◎次回予告

1月10日/第482回例会

回「新年のご挨拶」

回「尺八 箏 演奏会」

当クラブ会長 河 原 勢 自 君

尺 八 米澤 浩氏(日本音楽集団)

箏 熊沢栄利子氏(生田流・日本音楽集団)

東京新南ロータリークラブ

会長:河原勢自 副会長:保森 登 幹事:荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂 2-19-8 赤坂 2丁目アネックス 3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂 1-12-33 TEL.03-3505-1111

<会報委員>

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、

大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、

島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二郎、

関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

(編集担当順)